

## 資料4-1 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の趣旨、経緯について

### ○三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の趣旨

- ・人口減少が想定される社会構造の中で、地域の持続性を確保するには、新たな価値創造の担い手となる人財の育成が最大の課題であり、産学官によって極めて戦略的に行わなければならない。
- ・また、文部科学省においても産学協働体制による人財の育成や高等教育のあり方を探ることを目的とした「産学協働人財育成円卓会議(平成23年7月27日)」が開催された。
- ・県境を越えた地域形成を進める三遠南信地域では、次代の地域を担う人財の育成について検討協議するため、平成24年10月24日には「三遠南信地域大学シンポジウム」が開催された。
- ・こうした背景から前述のシンポジウムの発展形として、全16大学をコアメンバーとして、行政、産業界を加えた産学官による「三遠南信地域産学官人財育成円卓会議」を、第1回は平成25年2月1日、第2回は平成26年2月17日に開催した。第1回円卓会議では、人財育成・定着化に関する意見交換を行い、第2回円卓会議では、三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランを策定した。

# 資料4-1 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の趣旨、経緯について

## 第1回 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議

・日時 平成25年2月1日 14:00～17:00 ・会場 ホテルクラウンパレス浜松4階「芙蓉」

<p>経済界</p>	<table border="0"> <tr> <td>浜松信用金庫 理事長</td> <td>御室 健一郎 (欠席)</td> </tr> <tr> <td>聖隷福祉事業団 理事長</td> <td>山本 敏博</td> </tr> <tr> <td>(公財)浜松地域イノベーション推進機構 理事長</td> <td>津田 紘</td> </tr> <tr> <td>イシグロ農材(株) 代表取締役社長</td> <td>石黒 功</td> </tr> <tr> <td>(株)サーラコーポレーション 代表取締役社長</td> <td>神野 吾郎</td> </tr> <tr> <td>多摩川精機(株) 代表取締役社長</td> <td>萩本 範文</td> </tr> </table>	浜松信用金庫 理事長	御室 健一郎 (欠席)	聖隷福祉事業団 理事長	山本 敏博	(公財)浜松地域イノベーション推進機構 理事長	津田 紘	イシグロ農材(株) 代表取締役社長	石黒 功	(株)サーラコーポレーション 代表取締役社長	神野 吾郎	多摩川精機(株) 代表取締役社長	萩本 範文	<p>プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>開会</li> <li>挨拶 SENA会長 鈴木浜松市長</li> <li>趣旨説明             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)開催趣旨</li> <li>(2)国の円卓会議の状況について</li> <li>(3)三遠南信地域の人材育成の状況</li> </ul> </li> <li>討議             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)地域企業が求める人財像</li> <li>(2)大学における人財育成の取組状況と課題</li> <li>(3)三遠南信地域産学官人財育成の取組の方向性</li> </ul> </li> <li>取組方針 SENA会長 鈴木浜松市長</li> <li>閉会</li> </ol>											
浜松信用金庫 理事長	御室 健一郎 (欠席)																								
聖隷福祉事業団 理事長	山本 敏博																								
(公財)浜松地域イノベーション推進機構 理事長	津田 紘																								
イシグロ農材(株) 代表取締役社長	石黒 功																								
(株)サーラコーポレーション 代表取締役社長	神野 吾郎																								
多摩川精機(株) 代表取締役社長	萩本 範文																								
<p>大学</p>	<table border="0"> <tr> <td>愛知大学 学長</td> <td>佐藤 元彦</td> </tr> <tr> <td>愛知工科大学 学長</td> <td>安田 孝志</td> </tr> <tr> <td>飯田女子短期大学 学長補佐</td> <td>川上 恒夫</td> </tr> <tr> <td>静岡大学 副学長 理事</td> <td>柳 澤正</td> </tr> <tr> <td>静岡産業大学 学長</td> <td>三枝 幸文</td> </tr> <tr> <td>静岡文化芸術大学 学長</td> <td>熊倉 功夫</td> </tr> <tr> <td>静岡理工科大学 学長</td> <td>荒木 信幸</td> </tr> <tr> <td>豊橋技術科学大学 副学長</td> <td>寺嶋 一彦 (欠席)</td> </tr> <tr> <td>豊橋創造大学 学長</td> <td>伊藤 晴康</td> </tr> <tr> <td>浜松大学 学長</td> <td>中村 正義</td> </tr> <tr> <td>浜松学院大学 地域共創センター長</td> <td>佐藤 克昭</td> </tr> <tr> <td>光産業創成大学院大学 リエゾンセンター長</td> <td>江田 英雄</td> </tr> </table>	愛知大学 学長	佐藤 元彦	愛知工科大学 学長	安田 孝志	飯田女子短期大学 学長補佐	川上 恒夫	静岡大学 副学長 理事	柳 澤正	静岡産業大学 学長	三枝 幸文	静岡文化芸術大学 学長	熊倉 功夫	静岡理工科大学 学長	荒木 信幸	豊橋技術科学大学 副学長	寺嶋 一彦 (欠席)	豊橋創造大学 学長	伊藤 晴康	浜松大学 学長	中村 正義	浜松学院大学 地域共創センター長	佐藤 克昭	光産業創成大学院大学 リエゾンセンター長	江田 英雄
愛知大学 学長	佐藤 元彦																								
愛知工科大学 学長	安田 孝志																								
飯田女子短期大学 学長補佐	川上 恒夫																								
静岡大学 副学長 理事	柳 澤正																								
静岡産業大学 学長	三枝 幸文																								
静岡文化芸術大学 学長	熊倉 功夫																								
静岡理工科大学 学長	荒木 信幸																								
豊橋技術科学大学 副学長	寺嶋 一彦 (欠席)																								
豊橋創造大学 学長	伊藤 晴康																								
浜松大学 学長	中村 正義																								
浜松学院大学 地域共創センター長	佐藤 克昭																								
光産業創成大学院大学 リエゾンセンター長	江田 英雄																								
<p>行政</p>	<table border="0"> <tr> <td>SENA会長 浜松市長</td> <td>鈴木 康友</td> </tr> <tr> <td>SENA副会長 豊橋副市長</td> <td>堀内 一孝</td> </tr> <tr> <td>SENA副会長 飯田市長</td> <td>牧野 光朗</td> </tr> </table>	SENA会長 浜松市長	鈴木 康友	SENA副会長 豊橋副市長	堀内 一孝	SENA副会長 飯田市長	牧野 光朗																		
SENA会長 浜松市長	鈴木 康友																								
SENA副会長 豊橋副市長	堀内 一孝																								
SENA副会長 飯田市長	牧野 光朗																								
<p>コーディネーター</p>	<table border="0"> <tr> <td>SENAアドバイザー 愛知大学 教授</td> <td>戸田 敏行</td> </tr> </table>	SENAアドバイザー 愛知大学 教授	戸田 敏行																						
SENAアドバイザー 愛知大学 教授	戸田 敏行																								
<p>オブザーバー</p>	<p>国土交通省国土政策局広域地方政策課 調査員 堀田真悟、研修員 木本賢人          文部科学省高等教育局専門教育課 課長補佐 児玉大輔、専門官 杉江達也          新日本有限責任監査法人 大久保和孝          経済産業省中部経済産業局産業人材政策課 課長 中村真一郎          関東経済産業局産業人材政策課 課長補佐 鷲津久美子</p>																								

# 資料4-1 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の趣旨、経緯について

## 第2回 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議

・日時 平成26年2月17日 14:00～17:00 ・会場 ホテルクラウンパレス浜松 松の間

<p>経済界</p>	<p>イシグロ農材(株) 代表取締役社長                  小池商事(株) 代表取締役社長                  (株)サーラコーポレーション 代表取締役社長                  (株)トヨタテック 代表取締役社長                  聖隷福祉事業団 理事長                  浜松信用金庫 理事長                  (公財)浜松地域イノベーション推進機構 理事長                  (株)フジヤマ 代表取締役社長                  毎日企業(株) 代表取締役社長                  (株)蔵 代表取締役社長                  多摩川精機(株) 代表取締役副会長</p>	<p>石黒 功                  小池 高弘                  神野 吾郎                  小野 喜明                  山本 敏博                  御室 健一郎                  津田 紘 (欠席)                  藤山 義修                  吉崎 敬次                  金田 三千男 (欠席)                  萩本 範文</p>	<p>プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 挨拶 SENA会長 鈴木浜松市長</li> <li>3. 趣旨説明                         <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の趣旨、経緯について</li> <li>(2)三遠南信地域産学官人財育成ワーキング(計2回)の説明</li> <li>(3)三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプランについて</li> </ul> </li> <li>4. 討議                         <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)テーマ1 人財マッチング事業について</li> <li>(2)テーマ2 人財育成事業について</li> <li>(3)テーマ3 三遠南信地域への定住化について</li> <li>(4)推進体制について</li> </ul> </li> <li>5. まとめ</li> <li>6. 閉会</li> </ol>
<p>大学</p>	<p>愛知大学 学長                  愛知工科大学 学長                  豊橋技術科学大学 副学長                  豊橋創造大学 学長                  静岡産業大学 学長                  静岡大学 副学長                  静岡文化芸術大学 副学長                  静岡理工科大学 学長                  浜松学院大学 学長                  常葉大学 浜松キャンパス長・副学長                  光産業創成大学院大学 リエゾンセンター長                  飯田女子短期大学 学長</p>	<p>佐藤 元彦                  安田 孝志                  寺嶋 一彦                  伊藤 晴康                  三枝 幸文                  木村 雅和                  宮内 博実                  荒木 信幸                  雨宮 正一                  田中 誠一                  江田 英雄                  高松 彰充</p>	
<p>行政</p>	<p>SENA会長 浜松市長                  SENA副会長 豊橋市長                  SENA副会長 飯田市長</p>	<p>鈴木 康友                  佐原 光一                  牧野 光朗</p>	
<p>コーディネーター</p>	<p>SENAアドバイザー 愛知大学 教授 戸田 敏行</p>		
<p>オブザーバー</p>	<p>文部科学省高等教育局専門教育課 企画官 小林洋介                  浜松市立高等学校 校長 杉浦文夫</p>		

## 資料4-2 アクションプランの体系



朱書き下線の事業を候補として次の事業展開を図る

## 資料4-2 アクションプラン1. 人財マッチング事業

アクションプラン1. 人財マッチング事業		
(1) 大学生と地域企業との人財マッチング事業	1) 大学生と地域企業の交流促進事業	<p><b>①地域企業経営者との対話・交流機会の創出…(No.1)</b></p> <p>※進め方のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■企業、経済界のトップが大学生に対して授業・ディスカッションを行う</li> </ul> <p>②地域企業が独自に実施している公開講座への大学生の参加</p> <p>③大学生の研究や地域貢献活動についてのプレゼンテーション機会の創出</p>
	2) 地域資源を活用した多様なインターンシップの推進	<p><b>①地域の特徴をとらえたインターンシッププログラムの開発…(No.2)</b></p> <p>例:複数企業連携型インターンシップ 農商工連携・農林水産業インターンシップ 海外インターンシップ</p> <p>※進め方のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■各大学が実施しているインターンシッププログラム情報の共有</li> <li>■企業受け入れ先と各大学の総合コーディネート</li> </ul> <p>②企業が内定を出す前提での実践型採用直結インターンシップの実施</p> <p>③個々の自治体が保有する公的施設等を利用した遠方インターン生の滞在支援</p> <p>④地域企業のインターンシップ導入セミナーの開催</p>
	3) 就職活動支援Webサイトの整備 (仮)三遠南信地域人財ナビ	<p>①地域企業情報の発信サイト</p> <p>※進め方のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■三遠南信地域が誇る特徴的の企業の情報発信サイト運営</li> </ul> <p>②地域企業への就職希望エントリーシステム(インターンシップ含む)</p>
(2) 大学と高校の連携事業	1) 高校生の地域大学理解の促進	<p><b>①大学講義を高校生に開放し、地域大学への関心や理解を醸成…(No.3)</b></p> <p>※進め方のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「三遠南信オープンキャンパス」各大学が実施している高校生向けオープンキャンパス等で高校生向け講義の情報共有、web発信</li> </ul>
	2) 大学と高校が連携した情報発信事業	<p><b>①大学のキャンパスや授業を紹介する冊子を作成し高校へ普及…(No.4)</b></p>
	3) 地域企業の見学会等による企業情報の発信	<p>①大学生・高校生を対象とした企業見学会や説明会を実施し、企業情報を発信</p>

朱書き下線の事業を候補として次の事業展開を図る

## 資料4-2 アクションプラン2. 人財育成事業

### アクションプラン2. 人財育成事業

(1) 大学生・高校生向けの人財育成事業	1) インターンバイトの実施	<p><b>①資格取得などに繋がるアルバイト型インターンシップの実施…(No.5)</b>            (建築士、施工管理技士、FP等)            ※進め方のイメージ            ■企業理解を促進するアルバイト型インターシッププログラムの企業との共同作成</p>
	2) 地域の活性化に繋がる人財育成事業	<p><b>①行政、経済界からの地域課題に対応した大学(ゼミ等)コラボレーション事業の実施…(No.6)</b>            ※進め方のイメージ            ■地域や経済界(企業)が抱える地域課題を提供頂き、その情報を一元化して各大学へ投げかける            ゼミの専門分野とマッチングさせ、PBL(Project-Based Learning 課題解決型学習)の教育プログラムをゼミ等で実施する            ②社会人、大学生、高校生が参加する三遠南信ビジネスプランコンテストの実施            ③大学・産業支援機関等による産学官共同事業の推進</p>
	3) 大学生のコミュニケーション能力向上プログラムの開発	<p>①大学間の専門分野の単位互換制度の充実化            ②ワークショップ方式による複数校参加型授業の導入</p>
	4) 地域企業の能力を活用した人財育成事業の充実	<p>①地域企業が得意とする専門分野について大学との連携による大学講座(冠講座)の実施</p>
(2) 社会人向けの人財育成事業	1) 地域イノベーション人財育成事業の推進	<p><b>①商工会議所、商工会が実施する研修プログラムの統合化による多様な研修機会の提供…(No.7)</b>            ※進め方のイメージ            ■東三河広域経済連合会のプロジェクトをベースに、社会人向け研修・セミナーの一部を大学も手がけ、経済界と大学が共同で社会人向け研修・セミナーのプログラムを作成する            ②異業種・異分野の企業人・学生等が集まる広域的な交流サロンの実施</p>
	2) 企業の新分野進出支援等の人財育成事業	<p>①社会人博士制度(入学の地域枠等)の充実            ②社会人向けに短期集中型の新分野修学カリキュラムの整備            ③社会人向けの聴講制度の料金低額化</p>
	3) 社会人インターンシップ制度の整備	<p>①技術系人財が営業・小売販売、営業系人財が技術系でのインターンシップ            ②遠方の商工会議所等との連携による広域エリアでの社会人インターンシップ            ③知的財産活用型のインターンシップ</p>

朱書き下線の事業を候補として次の事業展開を図る

## 資料4-2 アクションプラン3. 三遠南信地域への定住化事業

### アクションプラン3. 三遠南信地域への定住化

(1) 地域への定住化促進事業	1) 地域大学への進学促進事業	<p><b>①大学、行政、経済界のトップによる高校生に対する授業…(No.8)</b></p> <p>※進め方のイメージ</p> <p>■大学、行政、経済界のトップが高校生に対して理念・思想を語る授業を行う。</p>
	2) 地域へのUターン人財の確保	<p><b>①高校の卒業生データを活用して、三遠南信地域へのUターン人財の確保…(No.9)</b></p>
(2) 住み続けたいと感じる地域情報の発信事業	1) 大都市圏など地域外に対する地域情報の発信	<p>①三遠南信地域のライフスタイルの紹介冊子の作成と大都市圏でのPR</p>
	2) 大学生や高校生に対する地域情報の発信	<p>①地域の産業・文化・生活環境等や地域のNPO等に関する公開講座の実施</p> <p>②地域企業の事業活動の紹介等に関する公開講座の実施</p>

朱書き下線の事業を候補として次の事業展開を図る

## 資料4-3. 三遠南信産学官人財育成ワーキング会議の開催について

### 第1回 三遠南信地域産学官人財育成ワーキング

日時	平成26年10月8日(水)14時～16時
場所	浜松市役所 北館 101号会議室
参加企業(6社)	(株)サーラコーポレーション、(社福)聖隷福祉事業団、浜松信用金庫、(公財)浜松地域イノベーション推進機構、(株)フジヤマ、多摩川精機(株)
参加大学(8大学)	愛知大学、豊橋技術科学大学、豊橋創造大学、静岡産業大学、静岡理工科大学、浜松学院大学、常葉大学、飯田女子短期大学
議事	1. ワーキング参加者確認、2. 本ワーキングの設置と現況確認、3. アクションプランの進捗状況、4. 今後のアクションプランの取組方針について、5. 第3回三遠南信地域産学官人財育成円卓会議について

### 第2回 三遠南信地域産学官人財育成ワーキング

日時	日時:平成26年11月20日(木)14時～16時
場所	浜松市役所 本館 802会議室
参加企業(3社)	(株)サーラコーポレーション、浜松信用金庫、多摩川精機(株)
参加大学(9大学)	愛知大学、豊橋技術科学大学、豊橋創造大学、静岡産業大学、静岡文化芸術大学、静岡理工科大学、浜松学院大学、常葉大学、飯田女子短期大学
議事	1. 経営者講義アンケート実施報告、2. アクションプランのあり方についてのアンケート結果について、3. アクションプランの来年度以降の取扱い方針について、4. 第3回三遠南信地域産学官人財育成円卓会議について

# 資料4-4. アクションプランの実施状況について

## ① 大学情報発信

アクションプランの№2・3・4に関連する事業として、平成23年度に作成した冊子『三遠南信の大学紹介』のデータを基本として、SENA公式WEBサイト(<http://www.sena-vision.jp/>)内に、『三遠南信地域の大学紹介』ページ(<http://www.sena-vision.jp/university/index.html>)を作成しました。

### ① SENA公式WEBサイト内にバナーを設置



### ② インデックスページを用意



※このページは三遠南信地域産業学官人材育成円卓会議において確認された、アクションプランに基づいて作成したものです。

三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)  
〒430-8652 静岡県浜松市中区元龍町103-2 浜松市企業建内 (本館5階)  
TEL : 053-457-2242 FAX : 053-457-2248  
E-mail : [sena@clear.ocn.ne.jp](mailto:sena@clear.ocn.ne.jp)

© 2009 SENA All rights reserved.

### ③ 紹介ページ全景 (例は愛知大学様)



冊子時の学生構成比の記載をやめ、新たに次の2項目を設置。

- 在校生・企業採用担当者向け  
「就職活動支援情報」
- 受験生・高校生向け  
「オープンキャンパス・学校見学情報」

リンク先は各大学が所有するWEBサイトの情報掲載ページなど。

就職活動支援情報

<http://www.aichi-u.ac.jp/recruit/index.html>

オープンキャンパス・学校見学情報

<http://www.aichi-u.ac.jp/exam/index.html>

拡大

## 資料4-4. アクションプランの実施状況について

### ②経営者講義について－アンケート調査の結果

#### 1. アンケートの調査概要

目的	アクションプラン「地域企業経営者と大学・高校生の対話・交流機会の創出事業」における「企業経営者講義」の実施に向けて、関心や賛同の意向を把握した。 「企業経営者講義」は、企業経営者がこの地域で学ぶ大学生、高校生等へ仕事観やビジョンを語り、学生の企業・地域への意識・関心を高めようとするもの。
実施時期	平成26年10月～11月
配布数	402票(三遠南信地域の商工会議所の正副会頭・常議員、商工会正副会長)
回収数	129票(32%)(内訳:東三河41票、遠州59票、南信州29票)

#### 2. 回答結果

①大学で講義を行うことができる	と回答	26名(20%) ※遠州12名、東三河10名、南信州4名
②講義はできない	と回答	103名(80%)

# 資料4-4. アクションプランの実施状況について

## ②経営者講義について－経営者講演リスト

### 1. 遠州地域

	講演カテゴリー		1. 自社について	2. ビジネスについて	3. 地域問題について	4. 政治・経済について	5. ライフスタイルについて
	地域/氏名等						
1	浜松商工会議所 副会頭	(福) 聖隷福祉事業団 理事長 山本敏博	社史、企業ビジョン、事業内容、業界動向、人事、人材育成 等	経営論、組織論、マネジメント、リーダーシップ 等	少子高齢化 等	社会問題全般 等	
2	浜松商工会議所 常議員	静岡エフエム放送(株) 代表取締役社長 祐嶋繁一	社史、企業ビジョン、事業内容、業界動向 等	経営論、マネージメント 等	芸能・文化、イベント・催し 等	政治・経済:マスコミ 等	経験・体験談 等
3	浜松商工会議所 常議員	(有) 竹八不動産事務所 代表者 竹田昌治	事業内容、業界動向 等	ビジネス:サービス業 等			
4	浜松商工会議所 常議員	河合省吾税理士事務所 東海税理士会浜松西支部長 河合省吾		財務会計 等	相続、事業継承 等		
5	浜松商工会議所	浜松信用金庫 役員や業務に精通している職員	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
6	浜松商工会議所 常議員	(学) 爽青会専門学校ルネサンス アカデミー 理事長・学校長 中野勲次郎	社史、企業ビジョン、事業内容、業界動向、人事、人材育成 等	リーダーシップ、サービス業 等			夢、家族、経験・体験談、健康・美容 等
7	浜松商工会議所	(株) ヤタロー SV事業本部執行役員 小楠浩丈	事業内容 等				
8	掛川商工会議所 常議員	(株) 川島組 代表取締役社長 川島達也	企業ビジョン、事業内容、業界動向 等	経営論、リーダーシップ、営業 等	地域活性化、災害 等		夢、経験・体験談、健康・美容、住まい 等
9	掛川商工会議所 常議員	掛川タクシー(株) 代表取締役 早瀬公夫			地域活性化、まちづくり、観光、交通 等 地域情報化が最も得意		
10	奥浜名湖商工会	奥浜名湖商工会 事務局長 (中小企業診断士) 杉本光生		経営論、マネージメント、リーダーシップ、マーケティング、危機管理 等			
11	天竜商工会	木下恒雄			地域問題:観光、地域史 等		
12	奥浜名湖商工会	株式会社入河屋 五代目 松崎善治郎	企業ビジョン、業界動向 等	経営論、ものづくり 等			経験・体験談 等

# 資料4-4. アクションプランの実施状況について

## ②経営者講義について－経営者講演リスト

### 2. 東三河地域

地域/氏名等	講演カテゴリー		1. 自社について	2. ビジネスについて	3. 地域問題について	4. 政治・経済について	5. ライフスタイルについて
1	豊橋商工会議所 副会頭	株式会社サーラコーポレーション 取締役社長 神野吾郎	社史、企業ビジョン、事業内容、業界動向 等	経営論、マネージメント、リーダーシップ、イノベーション 等	地域活性化、まちづくり、中心市街地 等		
2	豊橋商工会議所 副会頭	大三紙業株式会社 代表取締役社長 松井孝悦	企業ビジョン 等	経営論、マネージメント、リーダーシップ、マーケティング 等	まちづくり 等		タイムマネジメント 等
3	豊橋商工会議所 副会頭	ヤマサちくわ株式会社 代表取締役社長 佐藤元英	社史、企業ビジョン 等		地域活性化、まちづくり、観光 等		グルメ 等
4	豊橋商工会議所 監事	中部ガス株式会社 取締役会長 中村捷二	社史、企業ビジョン、事業内容、業界動向、人事、人材育成 等	経営論、マネージメント、リーダーシップ 等	地域活性化、まちづくり、中心市街地 等		
5	豊橋商工会議所 常議員	豊国工業株式会社 代表取締役 山内有恒	社史、企業ビジョン、事業内容、業界動向 等				
6	豊橋商工会議所	豊橋信用金庫 理事部長 渡辺寛司	事業内容 等		地域活性化 等		
7	豊川商工会議所 副会頭	新東工業(株) 豊川製作所 特別顧問 川合悦藏	社史、事業内容、人材育成 等	経営論、マネージメント、グローバル化、リーダーシップ 等(ものづくり企業対象に限る。主として技術経営(MOT)全般)		国際情勢、日本経済 等	
8	豊川商工会議所 副会頭	(株)トヨテック 代表取締役社長 小野喜明	社史、企業ビジョン、事業内容、業界動向 等	経営論、マネージメント、マーケティング、営業 等	地域活性化、まちづくり、産業史 等	国際情勢、日本経済 等	
9	豊川商工会議所 常議員	シンニチ工業(株) 代表取締役社長 木下良夫	企業ビジョン、事業内容、人材育成 等	経営論、組織論、マネージメント、リーダーシップ 等			
10	豊川商工会議所 常議員	ティビーアール(株) 代表取締役社長 福井宏海	社史、企業ビジョン、事業内容、業界動向 等				

## 資料4-4. アクションプランの実施状況について

### ②経営者講義について－経営者講演リスト

#### 3. 南信州地域

	講演カテゴリー		1. 自社について	2. ビジネスについて	3. 地域問題について	4. 政治・経済について	5. ライフスタイルについて
	地域/氏名等						
1	飯田商工会議所 常議員	北沢建設(株) 代表取締役社長 北沢資謹	企業ビジョン、事業内容、 業界動向、人材育成 等		災害、公共インフラ 等		
2	飯田商工会議所	NPO法人しんきん南信州地域研 究所研究員 林郁夫			地域活性化、まちづくり、観光、 地域史、産業史、少子高齢化、 イベント 等		
3	飯田商工会議所	木下建設(株) 土木工事部長 藤本郁夫	事業内容 等	ものづくり 等	災害、公共インフラ 等		
4	宮田村商工会 副会長	有限会社野溝製作所 代表取締役 野溝昭次	社史、企業ビジョン 等	経営論、顧客満足 等	地域活性化、少子高齢化、過 疎化、災害 等	社会問題全般 等	家族、経験・体験談 等

## 資料4-4. アクションプランの実施状況について

### ② 経営者講義について

#### 地域経営者講義の実施

日時:平成26年11月29日(土) 11:00~12:30

場所:愛知大学豊橋校舎620教室

講師:株式会社平松食品 代表取締役 平松賢介氏

演題:世界の食卓につくだ煮を「三河つくだ煮の未来づくり」

受講生:40名



#### ■ 企業データ

製造品目 魚介類のつくだ煮、甘露煮(6種類、35品目)

従業員数:135名 住所:〒441-0155 豊橋市梅藪町折地2-1

HP <http://www.bisyoku.com/>

#### ■ 企業概要

あさり・はぜ等魚介類の伝統的なつくだ煮・甘露煮の製法を守りつつ、経営理念である「美食一品献上」を具現化し、時代のニーズを捉えた製品の開発、新しいつくだ煮料理の発信を行う食品メーカー。

つくだ煮は日本固有の食文化であり、海外には類を見ない。豊橋地区で作られる「三河つくだ煮」は、国内でも有数の生産地であり、全国津々浦々に商品が行き渡っている。

「世界の食卓につくだ煮を」 - つくだ煮の海外展開を行っている。ベルギーの世界食品コンクール・モンドセレクションで金賞を受賞。アメリカ、台湾、中国などへ製品の輸出を行っている。日本の伝統食品が世界標準の食品へと進化し続けていくことを実現するつくだ煮メーカー。

#### ■ 主な製品

さんま蒲焼、いわし甘露煮、あさりしぐれ、にしんうま煮、あゆ甘露煮、本はぜ甘露煮など魚介のつくだ煮・甘露煮



## 資料4-4. アクションプランの実施状況について

### ②経営者講義について

#### 講義の骨子と経営者から学生へのメッセージ

◆つくだ煮の歴史と三河湾	<ul style="list-style-type: none"><li>・つくだ煮は江戸初期に誕生し参勤交代で全国へ広まる。</li><li>・遠浅の海が広がる三河湾。汽水域に豊富な海の幸と三河平野の醤油・水飴などの食文化を活かした商品づくり。</li><li>・良い原料が地域にあるから、より製品ができる。</li></ul>
◆つくだ煮の未来づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・国内マーケットは縮小している。新しいポジションを確立するため、新商品を開発。日本のモダンな食文化として発信。</li><li>・さらに、海外マーケットへ展開。調査研究、販売促進など地道な努力を重ねて新しいつくだ煮を世界へ拡大。</li><li>・2006年以降、海外展開を加速。中国、香港、台湾、タイ、ニューヨークなど</li><li>・2014年にはモンドセレクション10年連続受賞。</li></ul>
◆海外販路開拓の取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>・海外へのアクションプランを作成し、各国の味覚や文化に合わせた提案。例として甘辛煮の味の表現として「TERIYAKI-FISH」への進化</li><li>・海外とのつながりは人との信用力が重要</li><li>・輸出指向の強い食品異業種メーカー集団として共同組織「愛知県食品輸出研究会」を立ち上げる。</li><li>・ネットワークを駆使して個々にスキルアップ、インバウンドや輸出商談会で積極的なプロモーション活動。海外展示会や商談会にスピーディに対応し海外販路開拓。</li></ul>
◆地域コラボレーションと地域戦略	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域で始まる新しい取り組みから地域活性化を目指す。地域にある水産高校、県立水産試験場、漁協などとコラボレーションを実現。</li><li>・お互いのニーズとリソースを組み合わせ、商品共同開発に取り組む。水産高校の専門知識と若者の柔軟な思考を活かして、パブリックブランドを生み出す。</li><li>・産学共同開発により「愛知丸ごはん」が平成24年3月に誕生。初年度5万本出荷。愛知県や国の食品コンクールの最優秀賞。2014年モンドセレクション金賞受賞。</li></ul>
◆若い人へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"><li>・柔軟な思考を持ち続けること。人間が持つ頭は2種類ある。「地頭」は先天的なもの。「素頭」は環境に合わせて変化し多くのことを学び発想を豊かにする。「素頭」を鍛えて楽しい人生を過ごしてほしい。</li><li>・地域のリソースを繋げて統合させていくと新しいビジネスが生まれる。どんな方向から次の展開が生まれてくるのか分からない時代になった。情報を入手、整理できる力を付け、地域で活躍してほしい。</li></ul>



## 資料4-4. アクションプランの実施状況について

### ③アクションプランのアンケート結果

#### 1. アンケートの実施概要

目的	第2回三遠南信地域産学官人財育成円卓会議にて確認された、人財育成のためのアクションプランについて、今後の推進方針やあり方について、WG構成員の意向を確認するため。
実施時期	平成26年10月～11月
依頼数	総数23(三遠南信地域内の13大学、10企業)
回答数	14(61%)(内訳:9大学、5企業)

#### 2. アンケート内容

##### 【設問1】

◆No1～9の項目について、優先して実施すべきと考える項目順に1から9の数字を振ってください。

##### 【設問2】

◆No1～9の項目について、以下の選択肢から1つ選んでください。

- ・ このまま取り組むべき
- ・ 内容について見直しが必要
- ・ 優先実施項目から除外すべき

【設問2-A】(設問2において、「内容について見直しが必要」・「優先実施項目から除外すべき」を選択した方にお尋ねします。)

◆「設問2」において、「見直し」・「除外」を選択した理由を以下の選択肢から1つ選んでください。

- ・ 設定の意図が不明
- ・ 内容がわかりづらい
- ・ その他

【設問2-B】(設問2-Aにおいて、「その他」を選択した方にお尋ねします。)

◆「設問2-A」において、「その他」を選択した理由を以下の回答マスに記載してください。

##### 【設問3】

◆赤太文字(No1～9)以外で実効性や実施可能性が高いと思われるものがありましたら、中項目(片カッコ)ごとに1つ選択し、黒丸(●)を記入してください。

##### 【設問4】

◆新たに取り組んでみたい事業や活動がありましたら、ご記入ください。(具体的な名称や事柄でなくても、イメージなどでも構いません。)

##### 【設問5】

◆自由記載欄です。アクションプランに提示されている項目について、所感等ございましたら、ご記入ください。  
(よりよいものにするについては、どうすればよいのか等)

# 資料4-4. アクションプランの実施状況について

## ③アクションプランのアンケート結果

### 2. アンケートの結果

【設問1、2、2-A、2-B、3】

<設問1について>

◆判定を容易にするため、以下のように評点をつけ、優先順位づけを行った。

優先順位：1位 → 2位 → ... → 8位 → 9位  
 評点：9点 → 8点 → ... → 2点 → 1点 } 左記の方式により順位付けした結果はP.18別表のとおり。

<設問2(別表参照)>

◆優先順位上位(別表上位)のものは、「このまま取り組むべき」という意見のみであった。

◆順位下位のものについては「優先項目から除外すべき」という意見も見受けられた。

<設問2-A、2-B(別表参照)>

◆見直しが必要とする根拠についても別表を参照のこと。

<設問1から2に関して>

◆経営トップ(業種を問わず)による働きかけが関係する同様のアクションプラン(№1と№8)についても、1位と7位に評価がわかれた。

◆総じて「アクションプラン1『人財マッチング事業』」の評価が高く、アクションプランの「2」や「3」への評価が低い。

<設問3>

◆現在、優先実施項目と同様、アクションプラン1に多くの票が集まる結果となった。

◆アクションプランの種別単位で、上位の票数を獲得したものは以下の表のとおりである。

アクションプラン1. 人財マッチング事業			
(1)	1)	③大学生の研究や地域貢献活動についてのプレゼンテーション機会の創出	8
(1)	3)	①地域企業情報の発信サイト	8
(2)	3)	①大学生・高校生を対象とした企業見学会や説明会を実施し、企業情報を発信	8
アクションプラン3. 三遠南信地域への定住化			
(2)	1)	①三遠南信地域のライフスタイルの紹介冊子の作成と大都市圏でのPR	5

アクションプラン2. 人財育成事業			
(1)	2)	③大学・産業支援機関等による産学官共同事業の推進	5
(1)	3)	①大学間の専門分野の単位互換制度の充実化	5
(1)	4)	①地域企業が得意とする専門分野について大学との連携による大学講座(冠講座)の実施	8
(2)	1)	②異業種・異分野の企業人・学生等が集まる広域的な交流サロンの実施	5

# 資料4-4. アクションプランの実施状況について

## ③アクションプランのアンケート結果

### 【設問4】

◆寄せられた意見は以下の3点のみ。

プログラム名		具体的活動イメージ
アクションプラン1	(1) - (2) 地域の特徴をとらえたインターンシッププログラムの開発	長期インターンシップ (3ヶ月)
アクションプラン2	(1) - (2) 社会人、大学生、高校生が参加する三遠南信ビジネスプランコンテストの実施	専門性の高い社会人の分野別リスト作成
アクションプラン2	(1) - (2) 地域企業が得意とする専門分野について大学との連携による大学講座 (冠講座) の実施	寄附講座の開設

### 【設問5】

◆意見が寄せられた項目のみ抜粋。

アクションプラン1. 人財マッチング事業		
(1)	1) ①地域企業経営者との対話・交流機会の創出... (No1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●できれば現場で実施しましょう</li> <li>●大学の学生にとって、就職先となる可能性がある地域企業 (経営者) との対話や交流は、就職のミスマッチを防ぐ意味でも効果的だと思う。こうした取り組みは、多くの学生を対象に企画しないと、学部学科によっては、参加者の偏りが懸念される。</li> <li>●引続き役員や業務に精通する職員が大学の冠講座を行ったり、小・中・高校生 (主に中学生) に対して金融教育を行っていく方針。</li> <li>●行政、大学、高校などの要請にもとづいて、一般経済状況、地域経済史、将来のあるべき姿、労働感・勤労観などについての講演を行っています。</li> <li>●地元優良な企業群があることを知ってもらい良い取り組みであると考えている。</li> </ul>
	②地域企業が独自に実施している公開講座への大学生の参加	●企業のPR能力UPを。
	③大学生の研究や地域貢献活動についてのプレゼンテーション機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域にある大学の使命感を高めましょう</li> <li>●「場」を提供するのではなく、各大学において行われている様々な研究発表やプレゼンテーションの場に、行政や企業の皆様の積極的な参加を望む。</li> </ul>
	2) ①地域の特徴をとらえたインターンシッププログラムの開発... (No2)	●諸外国で実施されている1~2年程度の時間をかけて行う長期実務体験のようなプログラムの方が、学生と企業双方にとって有効かもしれません。
	②企業が内定を出す前提での実践型採用直結インターンシップの実施	●就活との一体化にならないこと
(2)	1) ①大学講義を高校生に開放し、地域大学への関心や理解を醸成... (No3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本学においても、高校大学連携事業により積極的に取り組んでいる。</li> <li>●大学が校舎持ち回りで幹事校を決めてやれば浜松でもすぐに実施できると思う。</li> <li>●高大連携事業で今年8月に開催された「ラベリングフェスタ2014」は、大変良い取り組みであったと思います。今後、大学授業のみでなく、企業や行政部門が担当する講座の新設も一度検討されてみてはいかがでしょうか？産学官連携のプログラムへと発展できるのではと考えます。</li> <li>●大学で具体的にどのようなことが学べるのかを高校生が直に知ることで、地域大学への関心が高まると考える。</li> </ul>

## 資料4-4. アクションプランの実施状況について

### ③ アクションプランのアンケート結果

【設問5(続き)】

◆意見が寄せられた項目のみ抜粋。

アクションプラン1. 人財マッチング事業		
2)	①大学のキャンパスや授業を紹介する冊子を作成し高校へ普及... (№4)	●各大学ともに、学生の獲得については様々な努力を行っている。情報発信は特に重要な項目であると思うが、限られた情報量で学生が必要とするものを提供することは非常に難しいと思う。また、活字による情報提供は修正が難しく、古い情報がいつまでも残ることが危惧される。
3)	①大学生・高校生を対象とした企業見学会や説明会を実施し、企業情報を発信	●地域企業のホスピタリティが問われる
アクションプラン2. 人材育成事業		
(1)	1) ①資格取得などに繋がるアルバイト型インターンシップの実施... (№5)	●インターンシップを利用して、学生を安価に働かせる事案も見られるため、プログラムとして実施する場合は、事務局において参加する企業の精査など、慎重に進めるべき。 ●業種によって対応可否の差が生じる取り組みですので、可能な業種は積極的に取り組んでいただきたいと思います。
	2) ①行政、経済界からの地域課題に対応した大学(ゼミ等)コラボレーション事業の実施... (№6)	●事業としての確かな実績を早く作る必要がある ●大学に寄付講座を開設するとともに、社会人大学院入学や共同研究を行うなどの取り組みを行ってきています。
(2)	1) ①商工会議所、商工会が実施する研修プログラムの統合化による多様な研修機会の提供... (№7) ②異業種・異分野の企業人・学生等が集まる広域的な交流サロンの実施	●企業向けのプランとして考えた場合は「このまま取り組むべき」とすることに依存は無い ●当地においては、商工会議所から人材育成に関わる機能が離れ、公益財団法人南信州・飯田産業センター、経営者協会、中小企業団体中央会などの組織がその機能を担い、人材育成・研修事業を推進しています。 ●寄席のような雰囲気を実施したらどうか
	2) ①社会人博士制度(入学の地域枠等)の充実	●研究科前期・後期課程共に社会人選抜受け入れ制度はある。
アクションプラン3. 三遠南信地域への定住化		
(1)	1) ①大学、行政、経済界のトップによる高校生に対する授業... (№8)	●トップに絞らずに ●地域の高校が毎年開催している、地域で働く様々な業種の社会人が、仕事や地域に対する思いなどを生徒に伝える機会に、参加させていただいています。 ●高校生には若干難しいのかもしれないが、良い取り組みだと考えるので推進してほしい。
	2) ①高校の卒業生データを活用して、三遠南信地域へのUターン人材の確保... (№9)	●企業向けのプランとして考えた場合は「このまま取り組むべき」とすることに依存は無い
(2)	2) ②地域企業の事業活動の紹介等に関する公開講座の実施	●地域の高校に複数の企業で出向き、企業紹介をさせていただいてはいかがでしょうか。

# 資料4-4. アクションプランの実施状況について

## ③アクションプランのアンケート結果（別表）

優先 順位 結果	アクションプラン 優先実施項目	設問1				設問2			設問2-A			設問2-B
		総合評点		優先順位(平均値)		このまま取り 組むべき	内容について 見直しが必要	優先項目から 除外すべき	設問の意図が 不明	内容がわかり づらい	その他	
		大学 順位	企業 順位	大学 順位	企業 順位							
1	地域企業経営者との対話・交流機会の創出... (№1) - AP1	105 66	39	2.56	2.2	13	0	0	0	0	0	
		1	1	1	1							
2	大学講義を高校生に開放し、地域大学への関心 や理解を醸成... (№3) - AP1	90 57	33	3.33	3.4	13	0	0	0	1	0	
		3	2	3	2							
3	地域の特徴をとらえたインターンシッププログラ ムの開発... (№2) - AP1	85 64	21	2.78	5.8	13	0	0	0	0	0	
		2	7	2	7							
4	行政、経済界からの地域課題に対応した大学 (ゼミ等) コラボレーション事業の実施... (№6) - AP2	82 57	25	3.67	5	12	1	0	0	1	0	
		3	4	4	4							
5	大学のキャンパスや授業を紹介する冊子を作成 し高校へ普及... (№4) - AP1	64 38	26	5.67	4.8	8	4	1	0	1	4	
		5	3	5	3							
6	資格取得などに繋がるアルバイト型インターン シップの実施... (№5) - AP2	62 37	25	5.67	5	9	3	1	0	2	2	
		6	4	5	4							
7	大学、行政、経済界のトップによる高校生に対 する授業... (№8) - AP3	56 33	23	5.78	5.4	12	1	0	0	0	1	
		8	6	7	6							
8	商工会議所、商工会が実施する研修プログラ ムの統合化による多様な研修機会の提供... (№7) - AP2	53 36	17	5.78	6.6	11	2	0	0	1	1	
		7	8	7	8							
9	高校の卒業生データを活用して、三遠南信地域 へのUターン人材の確保... (№9) - AP3	33 17	16	7.78	6.8	9	3	1	0	1	3	
		9	9	9	9							

●現在、各大学の入試関連情報は非常に充実しており、学生は希望する大学の情報を簡単に入手することができる。改めて紹介冊子を作成する必要性を感じない。  
●うわべだけの案内になる懸念がある  
●高大連携事業を活用してはどうか  
●各大学がそれぞれ行うべき

●インターンシップによって取得できる資格の種類など、具体的な内容が見え難い。  
●アルバイト的な内容で、実質的なインターンシップにならない懸念  
●前回の調査で「実施は困難」と回答した企業が7割。大学側でも「行う予定・希望はない」との回答が約半数であったため。

●高校生が理解できるテーマの選定がカギ

●大学などの教育機関に対する具体的な提供方法の例示などが必要  
●地域の実情に応じて、研修機会の提供について、働きかける先を変えてはどうかでしょうか。

●大学が成すべき内容がわからない。  
●戻る気を起こさせる魅力が地域に無いと意味が無い  
●卒業生データが取得・活用できるかどうか？  
高校側への確認が必要。(地元企業としては、卒業生データの活用は有効。)

## 資料4-5. アクションプランの実施状況について

### アクションプランの来年度以降の取扱方針について

1. アクションプランとして定められているもののうち、WGで実施したアンケートの結果では、高評価は「アクションプラン1『人財マッチング事業』」に集中しているが、人財の育成と定着化という当初目標を達成するため、アクションプラン1・2・3のうちから、1つずつに焦点を当て取り組むこととする。
2. アクションプラン1については、現在、優先実施項目と定められているNo.1～4について評価が高いため継続実施とする。特に優先実施項目No.1について、平成26年度事業にて作成した経営者リストを活用し、地域内の学生・生徒への授業機会や交流機会を創出していく。  
例) ① 経営者リスト(冊子)の教育委員会への配布  
② 域内高等学校への郵送  
③ SENA公式ウェブサイトへの経営者リストの掲載 など
3. アクションプラン2については、評価が高いものから低いものまで分散しているが、その中から「行政、経済界からの地域課題に対応した大学(ゼミ等)コラボレーション事業の実施(…No.6)」について取り組むこととする。  
例) SENA構成員宛に地域課題の抽出  
↓  
抽出された課題をリスト化し、域内大学に提供  
↓  
構成員と大学間で直接やり取りを実施
4. アクションプラン3については、当初優先項目への評価が低いため優先項目の見直しを行い、No.9を休止とする。代替の優先項目として「(2)-1)-①『三遠南信地域のライフスタイルの紹介冊子の作成と大都市圏でのPR』」について取り組むこととする。  
例) 地域内企業に勤務する入社1～3年目(ないし20代)くらいの若者のライフスタイル紹介[冊子やウェブ] など
5. アクションプランの進捗管理は、現在の人財育成WGを移行した会議の場で行う。また、会議開催の呼びかけはSENA事務局が行い、進捗状況の報告は三遠南信サミットの場にて行う。